

乳児期の顔面浸出症状と全身再燃を経て背部の一部を残すまで改善した乳児アトピーの経過 (1歳 女児)

症例 ID：001-01-MY2 | 記録日：2015 年 12 月 26 日

1. 診断・治療前経過

生後 1 か月頃から顔に湿疹が出始め、その後、顔全体の腫れ、耳切れ、黄色い浸出液、掻破がみられました。
生後 3 か月頃に遠隔で治療を開始しました。生後半年頃には皮膚状態が大きく改善しましたが、パン粥摂取後にアナフィラキシー症状が起こり、救急搬送先でステロイド注射を受けました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	アナフィラキシー時に救急搬送先でステロイド注射を受けました。
製品名	製品名は不明です。
強度	不明です。
使用期間	1 回です。
中止時期	生後半年頃です。
来院前／後	治療開始後、救急搬送時に使用されました。日常的な外用歴はありません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後 1 か月頃	発症	顔に湿疹が出始めました。
生後 3 か月頃	治療開始	顔の腫れ、耳切れ、黄色い浸出液に対して遠隔治療を開始しました。
治療開始直後	初期変化	黄色い浸出液は早期に止まりましたが、顔と体の湿疹はしばらく続きました。
生後半年頃	改善	皮膚状態が目立って整いました。
生後半年頃	救急治療	パン粥摂取後に口唇腫脹と喘鳴が起こり、救急搬送先でステロイド注射を受けました。
1 歳前頃	再燃	顔と臀部以外の全身に湿疹が広がり、強いかゆみと不眠がみられました。
再燃から約 2 か月	経過後	背中の一部を除き、皮膚状態が整いました。

4. ピーク時期

ピークは、1 歳前頃に顔と臀部以外の全身へ湿疹が広がり、夜間も眠れないほど掻いた時期です。

5. 困りごと

- 顔面の腫れと浸出液があり、日々の入浴と外用処置が必要でした。
- 遠方在住で上の子ども 2 人の育児もあり、早期の来院が難しい状況でした。
- 全身再燃時には夜間の強いかゆみで睡眠が妨げられました。

6. 経過のまとめ

生後半年頃には皮膚状態が大きく改善しました。
1 歳前頃の全身再燃後も治療を継続し、約 2 か月後には背中の一部を除いて皮膚状態が整いました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。